



恰野集

春下

特別
イ 4
3163
31(2)



雨催花	雨中花	雨後花	夕花	夜花
燈前花	閣夜花	深秋花	曙花	朝花
花下送日	花下忘歸	野花	山櫻	遠山梅
深山櫻	山花	山花盛	滿山花	每山花盛
花深山氣色	遠山花	深山花	望山花	遠望山花
霞隔山花	暮山花	分社入山詠	山路花	山社不散風
山社東落	嶺花	遠嶺花	連峯花	林扉花
松花	古溪花	旅客見花	羈旅花	旅宿花
行路花	園路花	名所花	志加花園	志賀山越
水三花	水邊花	花歎浮水	花歎寫水	花滿澗水
湖邊花	海邊花	河上花	池上花	庭花

花下	花使	花忘者	花友	花苗客	花交松	花待人	花友人	花鄰花	花都花	花閑花
花根	花主	老賞者	老後花	山花苗人	竹間花	依花待客	花作春友	紫庭花	鄰花	花
花枝	花宿	花殿老	老見花	行人留花	松間花	依花待友	花宴	古京花	里花	田家花
花梢	花木	花忘愁	對花恥老	尋花會友	柳邊花	依花客來	花前興	故鄉花	山家花	山家花
花心	花本	花便	尚齒會	花時客來	家花勝他花	花隔松	櫻狩	古宅花		

鶯聲誘別  
東花下

花白	花鏡	花枝	心花	花手向	花易散	年々惜花	雨中惜花	總見落花	落花多	落花滿山
花與春白	花浪	花摘	花面歎	插頭花	花半落	惜花經年	老人惜花	落花	落花堆	峯落花
花露	花淵	花苞	花欣見	花欲移	無風散	對月惜花	老惜花	惜落花	落花處々	簾落花
花之香	花錦	花顏	形見花	花將散	惜花	晝夜惜花	替身惜花	憐落花	山落花	谷落花
花筵	花衣	花心	花麻	花漸稀	貴賤惜花	對客惜花	惜花切	落花難駐	深山落花	樹陰落花

苔上落花 山路落花 落花滿路 行路落花 關路落花  
 名所落花 水上落花 落花浮水 河上落花 潼關落花  
 湖上落花 海邊落花 禁庭落花 古宮落花 故鄉落花  
 舊宅落花 庭中落花 落花滿庭 夜庭落花 閑庭落花  
 見花不掃庭 山居落花 田家落花 山寺落花 社頭落花  
 曉落花 朝落花 暮落花 夜思落花 夢中落花  
 月前落花 風前落花 落花隨風 風後落花 雨中落花  
 雨後落花 落花似雪 花不殘 花落枝綠 見落花  
 落花散衣 花落頭 落花留客 花落客稀 落花  
 思殘花 尋殘花 花僅殘 遠尋落花 殘花風芳  
 霞藏殘花 閏月花 寄花離別 花前別人 寄花懷

社前述懷 寄花述懷 花前幽思 花催懷舊 花前懷舊  
 寄花懷舊 寄花神祇 寄花釋教 花前在常 寄花無常  
 見花觀其 花祝 寄花祝 花有喜色 花佳色  
 花色春久 花契萬年 花契延年 花契多春 每春花芳  
 年之花珍 逐年花勝 花思來年 花思來在 花自有情  
 心在 春情寄花 春惜在 花時心不靜 入道見花  
 花駭定心 花下延思 花下言志 對花思西 花如舊日  
 依花忘家 花有遲速 花未忘 雜花 野遊  
 野遊至暮 燈日 春日 春興 老後春興  
 春眺望 海上春望 湖上春望 水鄉春望 春日望山  
 山中春望 旅中春望 三日 二日 宴 曲水宴

桃花	牡丹	堇	雨中堇	野堇
故鄉堇	荒砌堇	古宅堇	摘堇	蛙
澤蛙	川蛙	井蛙	田蛙	水邊蛙
夕蛙	夜蛙	名所蛙	苗代	山田苗代
雨中苗代	寄苗代述懷	安一	躑躅	浦躑躅
水邊躑躅	山躑躅	巖上躑躅	岡躑躅	夕見躑躅
山振 <small>山吹同</small>	思山吹	山吹盛	翫山吹	折山吹
栽山吹	河邊山吹	水邊山吹	山吹写水	水底山吹
岸山吹	島山振	里山吹	幽居山振	故鄉山振
山中山振	名所山振	雨中山吹	暮春山振	惜山吹
山吹散	葵子花 <small>カキツバ</small>	藤花	紫藤	雨中藤花

月前藤花	幽栖藤	隣家藤花	禁庭藤花	池邊藤花
水上藤花	水邊藤花	藤花味水	橋上藤花	滝下藤花
岸藤花	浦藤	山藤	森藤	石上藤
藤懸松	藤花花松	紫藤藏松	藤為松花	藤為松衣
翫藤花	藤花苗客	藤花宴	折藤	挿頭藤
藤花久匂	藤花年久	暮春藤花	藤花散	寄藤述懷
暮春	暮春待人	暮春落花	暮春殘花	暮春日
暮春雨	暮春風	暮春霞	暮春雲	暮春月
暮春鳥	暮春鶯	暮春郭公	海邊暮春	江上暮春
水鄉暮春	川暮春	田家暮春	山家暮春	暮春山
名所暮春	幽居暮春	惜暮春	暮春述懷	暮春幽思

里春	春野心々	深山春	春夜	春天象	閏三月盡	江邊三月盡	三月盡	殘春日少	兼惜春	惜春
故鄉春	春行路	每山有春	春夢	春日	三月盡還懷	海路三月盡	三月盡夕	春殘二日	惜春不駐	年之惜春
春閑居	春關路	春嶺	春夕	春雪	春風	行路三月盡	三月盡夜	歲時春尚少	惜春非一	依花惜春
春山居	社頭春	春社	春朝	春煙	山春風	故鄉三月盡	惜三月盡	又發生路晦日	惜春送年	寄花惜春
春山家	都春	春野	春山	春露	春嵐	山家三月盡	三月盡花		殘春	若人惜春

春手向	春還懷	春旅	春車	春聲	春虫	紅有春色	春浪	春磯	春川	山家春興
春祝	春思	春旅宿	春舟	春色	春人	芦笋	春名貴	春海路	春滝	春隣家
春山里尋人	春懷舊	春旅行	春衣	春香	春主	春獸	春植物	春水路	春江	春田家
春人集	春釋教	旅春雨	春歌見	寄春雜物	春心	春鳥	春木	春池	春海邊	春田
正序	春神祇	春遠情	春苞	春枝	春意	春魚	松添春色	春池浪靜	春浦	春橋

二月 三月 閏三月



拾遺集卷之二十一

雨催花  
多中花

多及舟  
夕花

花  
燈  
園夜花

春之節下

初 花後 小花枝 花枝 花枝

春 花枝 花枝 花枝

梅 花枝 花枝 花枝

代 花枝 花枝 花枝

山 花枝 花枝 花枝

代 花枝 花枝 花枝

全 花枝 花枝 花枝

形 花枝 花枝 花枝

格 花枝 花枝 花枝

代 花枝 花枝 花枝

花枝 花枝 花枝

顯季

叙り

讀人不識

生倭

空靴

安仁

赤吉政

伊島

俊佐女

魚尾身

花山院

春下一

深花記

曙花

相茶

花下送白

花下忘飯

予 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 白雲の中へ梅咲けりやあちの春すきゆは  
 代 数ひきくもあちの春の暁小句を梅の花ぞりりる事  
 全 志づるも花の林にわらわちの風もあちの春すきゆは  
 勅 花をいふもあちの春の暁わらわちの春すきゆは  
 代 後をいふもあちの春の暁わらわちの春すきゆは  
 同 初よりいふもあちの春の暁わらわちの春すきゆは  
 後梅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは

野花

山梅

遠山梅

深山梅

山の花

初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 初 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは  
 勅 さまと交て凡や吹く花々の匂いさあちの春すきゆは



山花集

南山茶

南山新葉

花添山氣色

北山茶

深山花

望山茶

望山茶

望山茶

望山茶

今春山茶

山茶

山茶

山茶

山茶

代 山花集の巻末にありては...

俊頼

初 山花集の巻末にありては...

貞房

代 山花集の巻末にありては...

為業

初 山花集の巻末にありては...

元実

代 山花集の巻末にありては...

後原

初 山花集の巻末にありては...

圓位

代 山花集の巻末にありては...

讀人不識

初 山花集の巻末にありては...

丹方

代 山花集の巻末にありては...

龍崎八郎

初 山花集の巻末にありては...

長能

代 山花集の巻末にありては...

河上三

初 山花集の巻末にありては...

系極

代 山花集の巻末にありては...

後原極

初 山花集の巻末にありては...

くら右

代 山花集の巻末にありては...

俊光

初 山花集の巻末にありては...

俊忠

代 山花集の巻末にありては...

伊家

初 山花集の巻末にありては...

後原

代 山花集の巻末にありては...

日

初 山花集の巻末にありては...

経世

代 山花集の巻末にありては...

経衡

初 山花集の巻末にありては...

長方

代 山花集の巻末にありては...

主舟

初 山花集の巻末にありては...

元性

代 山花集の巻末にありては...

俊經

初 山花集の巻末にありては...

雅光

代 山花集の巻末にありては...

道村



水邊并

不乳浮水

花乳浮水

香内浦水

湖田并

海邊并

後境

あふ来ぬ人も名をとて梅の花のふりまきてぞあふ

赤巻

水のあふ来ぬはむ花のふりまきてぞ初て風はらけらるる

茶通

此のあふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

解學

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

赤巻

河上并

他上花

産花

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

西り

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

定家

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

國臣

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

鎌倉

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

後法

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

院法

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

西園寺

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

実隆

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

実隆

あふ来ぬはむ梅の花のふりまきてぞあふ来ぬはむ

実隆

閑花集

金 人もねむる不極花極く花もたをたふと方とを成ぬる  
お泉式部

形 楊柳の花のしづらうらうらと世はのんかとさうけいさく  
源冬々

日 今の家々一軒のしづら花はうき若の世とわらうらうら  
俊成

物 ひとくく花ももをさる里の庭の若海はつ縁はら  
皇宗

日 哀れも契もさる花さるや家さうけいさく人のまら  
伊性

日 じまの花を時ふ来しはなむねおのくくさる  
西園寺道

後 楊柳の花のしづらうらうらと世はのんかとさうけいさく  
空成

日 式里小館のむづろ楊柳のちのむづろ小家海はら  
謙光

物 色ゆり又せとさうら風小花ちる里の人のむづろ  
暁

代 ぬそくふ色はむづろ昔もくまお里小人のよらさる  
堀川大直

格 春の田舎人よらさる家いさく花にむづろくさる  
海老内侍

金 楊柳の田舎はむづろのせいとくさく花はむづろく  
輝成

形 けり小のさるいさくむづろさうら田舎くさく花はむづろ  
と忠

古 なる人もむづろの楊柳とさるのあさく後とさうら  
以成

山家花

田家集

里之花

澤之花

都之花

禁危集

古家集

左郷集

格 けり小のさるいさくむづろさうら田舎くさく花はむづろく  
と任

代 ぬそくふ色はむづろ昔もくまお里小人のよらさる  
道研

格 春の田舎人よらさる家いさく花にむづろくさる  
と信

金 楊柳の田舎はむづろのせいとくさく花はむづろく  
鎌倉右衛門

代 けり小のさるいさくむづろさうら田舎くさく花はむづろ  
大武二位

物 なる人もむづろの楊柳とさるのあさく後とさうら  
春日

日 式里小館のむづろ楊柳のちのむづろ小家海はら  
西山院

日 哀れも契もさる花さるや家さうけいさく人のまら  
中内侍

日 じまの花を時ふ来しはなむねおのくくさる  
横橋

後 楊柳の花のしづらうらうらと世はのんかとさうけいさく  
忠度

日 式里小館のむづろ楊柳のちのむづろ小家海はら  
讀人

日 哀れも契もさる花さるや家さうけいさく人のまら  
つとせ

日 じまの花を時ふ来しはなむねおのくくさる  
厚持

日 なる人もむづろの楊柳とさるのあさく後とさうら  
忠厚

古宅

接 わさねと橋のこをたにのむしまの物まはまへん  
 後接 たこの花のゆつりまめせいふ昔のこひとまう  
 月 つる里は河小はなそこついでん花も白のこもまう  
 結 後芽来わけのふままるははよ白ひこまね花まま  
 代 けりみる花まうつふままは花固わけまう  
 日 へんそひてわらりおはたの花まはなまわらるれ  
 日 たいのそま昔れこまは幾代の人つこまらる  
 日 つるのそはたれおは花こま昔ふままらる  
 後接 昔芽来わけ花の橋まらるこや花あつる  
 日 植えて人そ花の橋まらるこや花あつる  
 日 ちわわひこま昔れこまは幾代の人つこまらる  
 日 昔も宿花も昔ふままらるこや花あつる  
 日 代わらる花まふまらるこや花あつる  
 日 神地ままのこひもまらるこや花あつる

社頭

兼所  
松道  
右有花

花陽和  
不交和  
竹間  
松有  
柳道

月 花室如のまらるこや花あつる  
 日 代わらる花まふまらるこや花あつる  
 日 神地ままのこひもまらるこや花あつる  
 日 昔も宿花も昔ふままらるこや花あつる  
 日 代わらる花まふまらるこや花あつる  
 日 柳道のまらるこや花あつる  
 日 松有のまらるこや花あつる  
 日 竹間のまらるこや花あつる  
 日 花陽和のまらるこや花あつる  
 日 不交和のまらるこや花あつる



花作友友

兼家

玉子真

梅竹

花見兼

金 友友は花作友と云々 後 内大臣

村 花さぬと云々の里人 國信

代 花のぬきも梅の花も 基俊

後指 兼家

梅 花のぬきも梅の花も 九条太下

吹 花のぬきも梅の花も 中実

有 花のぬきも梅の花も 徳大寺

形 花のぬきも梅の花も 元輔

人 花のぬきも梅の花も 菅原

代 花のぬきも梅の花も 徳性

梅 花のぬきも梅の花も 友則

後 花のぬきも梅の花も 友則

勅 花のぬきも梅の花も 入彦太政

代 花のぬきも梅の花も 鍾信

統 花のぬきも梅の花も 稚重

代 花のぬきも梅の花も 兼輔

後 花のぬきも梅の花も 扶幹

千 花のぬきも梅の花も 基也

後 花のぬきも梅の花も 足る

月 花のぬきも梅の花も 成中

代 花のぬきも梅の花も 後徳大寺

日 花のぬきも梅の花も 九条太下

日 花のぬきも梅の花も 後成

日 花のぬきも梅の花も 法補

日 花のぬきも梅の花も 法補

日 花のぬきも梅の花も 法補

日 花のぬきも梅の花も 法補

日 花のぬきも梅の花も 法補

不磨光

花白

兼夜

香使

花白

花白

<sup>古</sup>車之れはまといをねおとせられ花を引かぬ物にのり

<sup>代</sup>花あふれをそとに社等ひこしあふまをせよ心

<sup>日</sup>毛だも安んぬね物きつは社のちやつをねをそと

<sup>代</sup>ちよとくもやめんがのふにさふちをねをそと

<sup>後</sup>車ゆいて花の夜ふこころをいよわぶるを心也

<sup>於</sup>こころもわぶと心し里小花の夜もくわぶ

<sup>後</sup>心しやな里んよ心かすこころをいよわぶ

<sup>代</sup>わらわく花の夜よはるれがむとわぶをねをそと

<sup>日</sup>こころもわぶとわねごとくはるれ花の夜もね

<sup>月</sup>け花のこころよこころとどころをいよわぶ

<sup>後</sup>心し花の夜もくわぶを吹く風よとどくを

<sup>代</sup>白くも花の夜もくわぶを吹く風よとどくを

<sup>後</sup>とどくともいよわねを花の夜もくわぶを吹く

忠仁々

春夜

呼細

花政

兼亮王

元輔

蓮付

又つね

淡人不知

鹿之尾

宗隆

黄系右本

後喜事

後喜事

後喜事

花白

花白

兼夜

不根

不枝

兼夜

花白

花白

花白

<sup>古</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

<sup>代</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

<sup>月</sup>吹風のそとねもくわぶを吹く風よとどくを

<sup>日</sup>本のかつこころをいよわぶを吹く風よとどくを

<sup>後</sup>心し花の夜もくわぶを吹く風よとどくを

<sup>代</sup>白くも花の夜もくわぶを吹く風よとどくを

<sup>後</sup>とどくともいよわねを花の夜もくわぶを吹く

<sup>月</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

<sup>日</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

<sup>代</sup>白くも花の夜もくわぶを吹く風よとどくを

<sup>後</sup>とどくともいよわねを花の夜もくわぶを吹く

<sup>月</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

<sup>日</sup>花の末もとりか枝が花をそとに吹く風よとどくを

素性

花山院

元性

梅宗

花山院

元性

梅宗

花山院

元性

梅宗

花山院

元性

梅宗



花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

代 昔ねどき春のつよこころに花の葉小ねんこころ

日 物なきに花のつる花をたてあきらみ小ねどき

形 花ちどく人もあねなる星のあきらみ花よ花風を吹

鏡 花のいふ花の鏡さる白ひよこふえあきらみ

月 花威者花が華小鏡のて花あわしつ昔の鏡よ

年 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

日 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

昔 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花 花の鏡とさる水あきらみ花の鏡よ

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

花鏡

歌身集

不麻

花手向

挿花集

不歌後

兼精集

花漸集

物 萬葉集のよき公白ひてまじり花のよきと云

代 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

千 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

千 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

形 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

古 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

物 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

澄秋

経因

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

後之我友

不馬散

兼中集

惜花

月 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

代 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

古 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

代 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

日 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

千 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

代 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

何 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

後 花のよきと云のよきと云のよきと云のよきと云

長方

長方

長方

長方

長方

長方

長方

長方

長方

長方

長方





懐<sup>く</sup><sub>2</sub>落<sup>る</sup>山

代  
山にふたは梅は惜むも不波も又之も山やうる  
日  
あまのすくすくうら梅花去の浪のゆらゆらと  
日  
御もたてつれづれとさうさうの山にふたは  
日  
はらけむらさきと花はあふむらさきと  
日  
若葉のわが不波の花よりさうさうの山に  
日  
吹風の清く物と知りまうさうさうの山に  
千  
の梅はふたはとさうさうの山に  
日  
わらわふと袖あつたばあ花のうらさうさう  
日  
さうさうの山にさうさうの山にさうさうの山に  
代  
さうさうの山にさうさうの山に  
古  
あ花のゆふとさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に

落<sup>る</sup>山

落<sup>る</sup>花

落<sup>る</sup>山

落<sup>る</sup>山

山

山

山

落<sup>る</sup>  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
あ花のゆふとさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に  
日  
さうさうの山にさうさうの山に

春下十五

葉茂る

若葉新

樹陰茂る

若葉新

山陰若葉

若葉新

山陰若葉

若葉新

若葉新

代 梅花のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

金 白きと梅の花はくえて梅花のふれも清く

後 葉茂る

有 葉茂る

新 葉茂る

代 葉茂る

古 葉茂る

後 葉茂る

代 葉茂る

千 葉茂る

代 葉茂る

千 葉茂る

千 葉茂る

千 葉茂る

伊直 覺林 名周 河野 後人不知 義家 日 希存 長元 長明 希存 日 義家 後人不知 親隆

水と葉

代 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

金 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

代 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

千 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

代 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

月 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

後 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

代 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

日 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

後 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

代 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

初 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

勅 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

後 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

勅 水と葉のふれも清く人をも清くしよと云はせのやま

安藤 種屋 能因 半範 頼政 中流入 権左大臣 古書心本 又天政下 神室 西り 後人不知



夜に落葉

白雲中落葉

月夜に落葉

風中落葉

落葉に風

風後落葉

金 夜に落葉は花は心 楊花をばはらりてふりてふりてふりて

古 花りては花の心 小秋なるに 早夏の内に 心花をばはら

代 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

隆原

其心

後冷泉院

経信

又つね

秋補

因位

成範

又保ね

其心

伊通

たよと皇

安藤

秋補

雨中落葉

雨後落葉

落葉に風

花をば

白 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

古 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

代 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

月 花の心とある 花の月影をばはらむ 花の色はまはらぬ

通親

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心

其心



見花集  
 美落校録  
 落不散衣  
 美落頭  
 落美落  
 花の落名種

有 櫻ふしのふととらるれば  
 代 家者の梅の風ふきかぬわき  
 物 今秋の後の花も暮れゆく  
 物 物とふかきく若の梅梅花  
 代 押れど花のあんな人少く  
 金 といと風吹つたまは花う  
 千 せうとうさの鳥のうばで花  
 月 花の一本の下落のあつう  
 物 花風吹つたまは花うさで  
 物 梅ちるとは花うさで花  
 物 といはれぬさむ梅花はち  
 物 梅ちるとは花うさで花  
 後 梅ちるとは花うさで花  
 後 梅ちるとは花うさで花  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種

高ねの  
 元吉  
 後系核  
 讀人言  
 日  
 少將  
 親実  
 伊実  
 眞見  
 眞之  
 眞之  
 眞之  
 眞之

殘花

思少集  
 美落集  
 遠  
 美落集  
 美落集  
 美落集  
 美落集

有 花のこゝろ人稀ふわき  
 千 下あつる雪のあつる梅  
 代 梅ちるとは花うさで花  
 月 花の一本の下落のあつう  
 物 花風吹つたまは花うさで  
 物 梅ちるとは花うさで花  
 物 といはれぬさむ梅花はち  
 物 梅ちるとは花うさで花  
 後 梅ちるとは花うさで花  
 後 梅ちるとは花うさで花  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種  
 花の落名種

範  
 伊正  
 信実  
 俊  
 道信  
 定  
 実  
 式部  
 長方  
 睦  
 肥後  
 以  
 出仙  
 花の落名種



寄新神祇

寄不釋教

寄不釋教

寄不釋教

寄不釋教

寄不釋教

寄不釋教

代 竹葉梅より人のさるせむ世の梅ふいそわき

形 咲白く花のうまはるるふ神の心をあはれ

代 年いふ花を神のほよふいづふとさるる梅は

内 分りては何をさむむ梅花もうたのまきぬら

内 かなどかく花ふらぬむむんそくそくまはと社さく

内 世の中はあつた物とさるるいそく花のらあたま

有 ちさるね世社つらぬ梅花もなぬあつたのうま

古 花とふ花のさむらわらるるあつたあつたあつた

物 咲白く風の中は花のうまあつたあつたあつた

古 花ははははははははははははははははははは

千 花ははははははははははははははははははは

古 花ははははははははははははははははははは

金 花ははははははははははははははははははは

年いふ咲く花の梅花程の束のまをわか

後系梅

白川院

鳥羽院

寂蓮

伊光

寂然

冥延

後不

魚神

後不

鳥羽院

とまの

花好

程魚

寄有善色

寄有善色

寄有善色

寄有善色

寄有善色

寄有善色

寄有善色

寄有善色

千 子代ふさげはめはと知はるるあつたあつたあつた

形 花ははははははははははははははははははは

内 花ははははははははははははははははははは

金 花ははははははははははははははははははは

千 花ははははははははははははははははははは

金 花ははははははははははははははははははは

内 花ははははははははははははははははははは

日 花ははははははははははははははははははは

千 花ははははははははははははははははははは

形 花ははははははははははははははははははは

後 花ははははははははははははははははははは

形 花ははははははははははははははははははは

千 花ははははははははははははははははははは

千 花ははははははははははははははははははは

左大臣

範魚

世を

左大臣

位在在

才結言

頭補

厚信

とま

堀川院

三川内侍

共々

土佐の右

伊正

年々花珍

詞

春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

西園寺入道

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

心在集

春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

春情寄心

春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

入道集

春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

月 春風の小枝を渡る花の影は海までゆく

及命

善駭(カス)心

不下延(ツ)思

花下(カ)志(シ)

千 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 園位。  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 忠良  
千 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 能因  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 舞然  
代 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 先れ  
後 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 高倉  
世 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 武部  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 益基  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 大柳  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 先り  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 伊前  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 承均  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 後人  
勅 花もむいひを枝のほ枝をそはれとてふ家方小 長

對(カ)西(シ)  
花(カ)舊(ク)

兼(カ)延(ツ)述

花(カ)未(ミ)

約 梅(カ)花(カ)風(カ)吹(カ)ち(カ)ね(カ)花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
月 花(カ)鏡(カ)風(カ)吹(カ)ち(カ)ね(カ)花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
日 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
月 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
形 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
金 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
古 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
形 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
後 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
代 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小  
勅 花(カ)も(カ)む(カ)い(カ)ひ(カ)を(カ)枝(カ)の(カ)ほ(カ)枝(カ)を(カ)そ(カ)は(カ)れ(カ)と(カ)て(カ)ふ(カ)家(カ)方(カ)小









山田苗代

有申苗代

高苗代懐

あーび

御湯

浦御湯

水邊御湯

山御湯

巖上御湯

苗代のあまのついでにのこるいふすそをさるる

苗代おせきもさるしん垣根さるいふ川のきよなる

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

あーび

苗代のあまのついでにのこるいふすそをさるる

苗代おせきもさるしん垣根さるいふ川のきよなる

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

あーび

苗代のあまのついでにのこるいふすそをさるる

苗代おせきもさるしん垣根さるいふ川のきよなる

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

三河侍

忠度

隆實

季純

勝命

益房

作善人

宗持

おる武部

義孝

後人

実保

下野

又乃

園御湯

夕見御湯

山御湯

山吹

里山吹

咲ねばあまのついでにのこるいふすそをさるる

園の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

園の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

あーび

苗代のあまのついでにのこるいふすそをさるる

苗代おせきもさるしん垣根さるいふ川のきよなる

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

あーび

苗代のあまのついでにのこるいふすそをさるる

苗代おせきもさるしん垣根さるいふ川のきよなる

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

山の西の山田のさるいふさるのさるせぬ日た

健宣

光國

歌伊

三河

捕野

基俊

彦彦

其之

魚明王

今也

空れ

少将

惟中

俊成

山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

敬山吹

代 花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

抄山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

何邊山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

水田山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

水田山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

島山吹

花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光  
花の吹の吹く小井も吹ては里へ小まらねむきこれ  
後 惠光

田山吹

出天吹

友郷山吹

山中吹

名所山吹

有津山吹

若草山吹

惜山吹

後花

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

たふしおめでしけりし里もかへりてさね山吹の華

伊島

後人不知

日

鳥島

後人不知

毛采

後半

鎌倉在芥

美之川

後人不知

後人不知

山吹散

燕子舞

金

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

山吹小にらる風もわびたさうはちさうらる年

長房

読人不知

美之川

ついでに

画昭

とてし

鎌倉在芥

業平

後人不知

後人不知

後人不知



橋上孫お

橋下孫お

岸孫お

浦孫お

山の孫

木孫お

松と孫

孫お

後接

金

勅

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

実事

大主典侍

哉

出典

綱

道

三

詩人不知

五

兼

了

顯

大

大

孫お

孫お

孫お

孫お

孫お

孫お

孫お

後接

金

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

後

良

後

通

歌

通

通

通

通

通

通

通

通

通

通

通

柳頭之舞

蘇子之舞

蘇子舞年久

蘇子舞蘇志

蘇子之舞

蘇子舞蘇志

蘇子舞

後法 文代(一)君が如き蘇花松のうらむははとすは

良選

蘇の花はてうせがまはつ春月と力ひの足やそく年

為若

蘇浪の君が子年(一)より移りて久しうとらるる

大直侍

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

何れ

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

維光

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其々

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

入江三郎

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

好忠

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其々

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行

蘇子舞の蘇志を嘆くよりさか下といふて知れ

其行



年々惜事

依社惜事

寄家惜事

友人惜事

魚情春

惜事不駐

惜事不駐

惜事不駐

物 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

代 春とて心もたぐさむとてさきもさき

日 心もたぐさむとてさきもさき

後 心もたぐさむとてさきもさき

物 心もたぐさむとてさきもさき

代 心もたぐさむとてさきもさき

日 心もたぐさむとてさきもさき

物 心もたぐさむとてさきもさき

代 心もたぐさむとてさきもさき

金 心もたぐさむとてさきもさき

代 心もたぐさむとてさきもさき

残美

残美日少

残美日少

残美日少

残美日少

日 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

新 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

後 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

新 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

手 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

物 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

古 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

後 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

日 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

物 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき

代 哀うく見る物づくふくたふく其のこころもさき



二月尾

代 花がふとちどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 朝忠  
 日 昔そいの昔く哀と心とぞや又あんともしもね別は ち原  
 日 ちんごの為とていねるまうれどくろの昔も六指くを 母た  
 日 何もせど花はもつど昔の昔もろく御まきの浪とらへど ち原九  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 全  
 日 昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 國境  
 金 春のりたふさむむと時なるまよふ昔もあふはつりさく御まきまよー 沈黙  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 中  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 仲細  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 静賢  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 國境  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 後之原内木  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 志山院  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 重之

二月尾夕

後 昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 雅克  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 弘家  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 淡人  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 式子持親王  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 好大五  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 豊  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 宣礼母  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 秋ノ院  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 能宣  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 隆季  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 定本  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 種家  
 日 今昔そいの昔とどおそく見まふばあふはつりさく御まきまよー 直房

三月暮夜  
暮三月暮

三月卷之集

に遠三月卷  
海濱三月卷

の詠三月卷

故郷三月卷

山家三月卷

閑三月卷

三月卷之集

春風

あはれと花はなつて暮るる春の河津の浪と心ごと

躬恒

全 花はなつて暮るる春の河津の浪と心ごと

貫之

代 花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

全

終波はのまの心はなつて暮るる春の河津の浪と心ごと

遊女神楽

子 花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

完志

月 花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

夕陽

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

珠翠

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

櫻政大政

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

寛言

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

美つね

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

花言

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

後生

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

基氏

花の心と暮るる春の河津の浪と心ごと

法入心

春山風

春風

春風

春日

春風

後生

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

元吉

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

入江太政

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

澄衡

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

祐盛

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

季彦

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

家隆

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

良國

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

夕陽

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

長家

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

建保の掣

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

貞年

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

寛房

あはれと暮るる春の河津の浪と心ごと

基氏

春煙

春霧

春夜

春夕

春山

春山

代 定まぬをぬりてをさすの山花してつる風とこれ 西行

日 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 嘉之

月 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 作其志

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 遍昭

秋 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 美のね

代 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 齋宮女御

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 作者不知

月 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 長家

秋 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 春夕

金 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 顯補

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 乃因

助 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 國信

日 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 後系極

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 讀人志

秋 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 寂蓮

後 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 顯基

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 重以

助 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 乾乾

日 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 作其志

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 基俊

秋 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 忠見

日 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 同

春 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 人鹿

秋 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 松島式

日 春のよとれを春やきり大井のふ小煙ふりえり 助

春野

春山

春山

春山

春山

春山

美の流  
 美園路  
 社頭  
 都春  
 甲美  
 左郷美  
 美園路  
 美山居  
 美山家

代 君らとこの山はよくいふ家だ花は花やいふとらふ  
 勅 坂の雲をさすはしらりのついでねんね花のしら波  
 日 下は山のお年の松東もくれば花もさくえははつて  
 後 花見やとふ山ふくくも山林もさびしうな家  
 古 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 勅 神さびたふ山里小流ふ都ふむ花はさ不見す  
 後 花見やとふ山ふくくも山林もさびしうな家  
 形 へくもさき松はさくれば花もさくえははつて  
 勅 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 代 海力さふ志雲のついでさき花はさくえははつて  
 日 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 全 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 代 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 山里の松のさきさきと花はさくえははつて  
 全 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし

花見や  
 後園路  
 社頭  
 都春  
 甲美  
 左郷美  
 美園路  
 美山居  
 美山家

山家美興  
 美園路  
 美山居  
 美山家  
 美田  
 春橋  
 美川

古 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 代 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 日 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 後 花見やとふ山ふくくも山林もさびしうな家  
 古 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 勅 神さびたふ山里小流ふ都ふむ花はさ不見す  
 後 花見やとふ山ふくくも山林もさびしうな家  
 形 へくもさき松はさくれば花もさくえははつて  
 勅 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 代 海力さふ志雲のついでさき花はさくえははつて  
 日 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 全 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 代 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし  
 山里の松のさきさきと花はさくえははつて  
 全 へつをせは松楊とさきせておどろきのあまをけし

花見や  
 後園路  
 社頭  
 都春  
 甲美  
 左郷美  
 美園路  
 美山居  
 美山家

美樹  
 事に  
 春海邊

春浦

美磯

美海邊

春水濱

春池

美池良静

春浪

春名所

物 船より小棹淡波の川流... 好佳  
物 ... 吾之  
物 ... 朝景  
物 ... 秋澄  
物 ... 春澄  
物 ... 春園  
物 ... 補所  
物 ... 魚院  
物 ... 春名所  
物 ... 順  
物 ... 春安  
物 ... 春名  
物 ... 春名

春植物

春木

春原

春名

春筍

春獸

春鳥

春魚

後松 ... 能因  
古 ... 春名  
後松 ... 王仁  
古 ... 致時  
古 ... 忠快  
古 ... 宗子  
古 ... 後人  
古 ... 攝政  
古 ... 聖體  
古 ... 顯竹  
古 ... 語  
古 ... 日  
古 ... 日



旅まゝる  
まゝる色憶

代 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

家長

後 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

孝子若

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

和紫左衛門

代 おぼろの夜をさく人まゝの夜をねらりり人まゝの夜

全

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

武部

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

康秀

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

読人多知

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

若性

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

まゝる全

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

日

全 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

日

まゝる  
まゝる懐旧

代 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

後京極

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

具守堅

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

理丸

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

太田直信

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

読人多知

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

通昭

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

若性

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

好忠

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

元補

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

以を

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

龍永

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

不在

日 若もが那々の海りのあふをねらりり人まゝの夜

読人多知

二月

三月  
閏三月

代りねて二月の十日の夜あり花のまらりいびきせおせと  
 つたひが夜きこい風をきききふ増ふらりいびき  
 月 伊豆ふまきつ花の夜ききききききききききききききき  
 古 桐花きききききききききききききききききききききき  
 全 わまらりいびきりびきききききききききききききききき  
 幸らりいびきりびきききききききききききききききききき

美以好  
 好志  
 入江天政  
 以可  
 丹七  
 左大臣



